

令和6年度 電磁波加熱技術部会技術交流・見学会「米倉山P2G実証事業」見学記

- 1.日 時：令和6年10月9日（水） 14:00～16:30
- 2.見学場所：米倉山次世代エネルギーシステム研究開発ビルディング（やまなしハイテクノロジーカンパニー（YHC）米倉山P2G実証事業）
- 3.説明者：東京電力ホールディングス株式会社（以下、東電HD） 矢田部 隆志 様、額賀 佐知子 様
- 4.出席者：15名（事務局6名、ヒートポンプ・蓄熱センター3名含む）
- 5.概要

今年度は前日（8日）にJEHC会議室で技術部会を開催し、翌9日午後、山梨県甲府市にある米倉山次世代エネルギーシステム研究開発ビルディングで実施しているP2G実証事業を見学した。甲府駅に集合し、タクシーに分乗して約30分で現地に到着。本来見学施設ではない、実証事業を行っている設備を見学できる貴重な機会であることから、技術部会委員5名の他にヒートポンプ・蓄熱センターより3名、JEHCより内山会長他計6名が参加した。本事業は以前技術部会の「委員講演」で東電HD井樋委員（当時）が紹介して大きな関心を集めたことから、今回の見学会実施に至ったもの。当時委員だった井樋様も、今回の見学会に特別参加いただいた。

はじめに、会議室で東電HD矢田部様から本事業の概要をご紹介。太陽光発電システムによる電気で水素を製造するにあたり、日照時間が長いこともありこの地が選ばれたとのこと。また、水素は輸送にコストがかかることから「地産地消」が理想的であること、近隣の半導体関連企業、パルプメーカーなどに製造した水素を供給しているとのこと。また、工場内に設置できる水素製造設備パッケージの開発（1号機は実証済）など、興味深い話を数多く聞くことができた。その後、矢田部様の案内により水素製造現場の見学に向かった。



写真1 会議室で事業概要説明

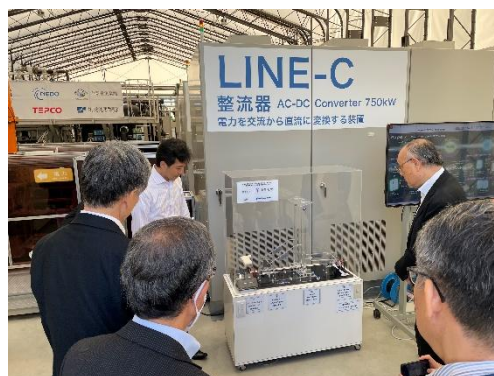


写真2 動く模型で理解を深める



写真3 水電解槽の前で

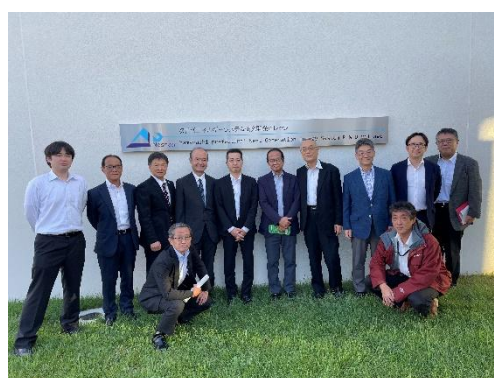


写真4 看板をバックに集合写真

現場に到着するとまず、分かりやすい動く模型で説明いただいた。「①太陽光パネルで発電⇒②水電解装置で水を水素と酸素に分解⇒③貯蔵⇒④燃料電池で発電」の流れを理解。その後、矢田部様より水電解槽（1500kW;500kW×3台）を始めとした実機を間近に見ながら各工程、設備を丁寧に説明いただいた。より一層本実証事業への理解が深まるとともに、本事業にかける矢田部様の熱い想いを感じ取ることができた。

最後に会議室で質疑対応いただき、見学会を終了。各参加者とも満足いただけ、充実した見学会となった。